

総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
 第5校時 13:05~13:50
 対 象 第6学年2組 38名
 学校名 小学校
 授業者 〇〇 〇〇
 会 場 教室

1 単元名 「自分を見つめて未来に羽ばたこう ～ 第一夜 世界友だちプロジェクト ～」

2 単元の目標

世界と大田区の様子、平和や幸せなどの視点から情報を集めたり、話し合ったりする活動を通して、国際理解の大切さと多文化共生への実現の難しさを知り、世界とつながりのある職業や必要となる学びなどに興味をもち、自分たちなりの生き方に生かそうとすることができる。

3 単元の評価規準

評価の観点		単元の評価規準
ア 知識・技能		①国や地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観があることを理解している。 ②大田区には、国際都市おおた大使やおおた国際交流センター等、外国人を支援する行政機関や職業があることを理解している。 ③相手や場面に応じた適切な調査や表現方法があることを理解している。
イ 思考・ 判断・ 表現	1 課題設定	①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。
	2 情報収集	②必要とする情報に応じて、調べる内容を精査し方法を決めている。
	3 整理分析	③国際理解や多文化共生について、成果や課題等の視点を結び付けて自らの考えへの根拠を見いだしている。
	4 まとめ・表現	④活動を通して学んだ自分からの思い、学びによる自己の変容等、自分の考えをまとめ表現している。
ウ 主体的に学習に 取り組む態度	1 自分自身に関する事	①国や地域の異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとするよさを取り入れようとしている。
	2 他者や社会との関わりに関する事	②友達と役割分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら地域の一員として関わりを深めていこうとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）第 5 章総合的な学習の時間

第 2 各学校において定める目標及び内容

2 内容

各学校においては、第 1 の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

3 各学校において定める目標及び内容の取扱い

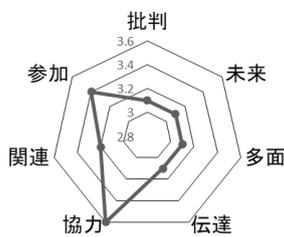
- (3) 各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。
- (5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。

本単元は、小学校学習指導要領第 5 章総合的な学習の時間第 2 の 3 の（5）に示された 3 つの課題のうち横断的・総合的な課題（現代的な諸課題）探究課題例、国際理解（多文化共生）にスポットを当てて取り組んでいる。国や地域を調べることから始め、自分たちが暮らす大田区が目指す多文化共生への課題を自分事として捉えることをねらいとしている。よって、児童が自らの考えを伝えたり、他者の考えを受け止めたりすることが、探究的な見方・考え方の土台になると考える。また、児童が国や地域だけでなく自分たちと関わりの深い地域社会を再認識し、学校を中心に自分たちの主張や行動をどう伝え、多様な生き方や目指す社会の在り方について自分なりに考えることができるようにしたい。

(2) 児童観

第 5 学年の 3 学期に実施した ESD アンケート（最大値 5）の結果は、図に示した通りである。前年度比、全体的に値は低くなっている。それは、発達面からメタ認知能力や批判的思考力が高まったことで、自分自身を客観的に認識できるようになった結果と捉えることができる。実態として、集団活動の場面では、個々で協力しようとする姿勢が強く団結力がある。一方で、自分なりの考えや思いはあるものの、思いを内に溜めてしまう傾向が強く受け身の姿勢がある。よって、学習場面では、教師が教えてから次に問題解決する授業展開から、児童自身による問題解決を先にさせることが必要である。また、ユニセフ募金や集会などあるものの、児童は異なる文化を超えた共生やそこに暮らす人同士と自分たちの関わりを結び付け考えた経験は少ない。

第 6 学年（第 5 学年 3 学期時点）



持続可能な社会づくりの構成概念							ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度							
I	II	III	IV	V	VI	VII	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性	その他	批判的に考える力	未来像を予測し計画を立てる力	多面的・総合的に考える力	コミュニケーション力	他者と協力する態度	つながりを尊重する態度	進んで参加する態度	その他
〔多様〕	〔相互〕	〔有限〕	〔公平〕	〔連携〕	〔責任〕	〔他〕	《批判》	《未来》	《多面》	《伝達》	《協力》	《関連》	《参加》	《他》
○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎

学年	批判	未来	多面	伝達	協力	関連	参加
第 4 学年	3.3	3.3	3.2	3.2	3.6	3.4	3.5
第 5 学年	3.1	3.1	3.1	3.1	3.6	3.2	3.4

(3) 教材観

大田区内在住の外国人人口は、2020年時点で25,000人以上と人口の伸びが著しい。また、羽田空港があることから、様々な国・地域から多くの外国人が訪れていた。今後、外国人区民および外国人来訪者は増加し続けると同時に、外国人区民が抱える課題は多様化しており、誰もが安心かつ快適に過ごせるまちづくりが喫緊の課題となっている。多文化共生のまちづくりに加え、国際交流・国際理解の必要性がこれまで以上に高まっており、本教材による学習を通じて児童自身が抱く将来像への思いや願いに関わることができるようにしていきたい。

5 年間指導計画における位置付け

本単元は14時間で構成している。他教科で学んだ知識・技能を生かしながら、教科等横断的な学習の展開について年間を通して位置付けることが総合的な学習の時間の年間指導計画を立てる上で重要であるとする。また、第6学年で継続して学習が行われるという特性から、前年度の学びを引き継ぎ、更新するためにも児童の興味・関心を高める教材との出会いを工夫すること、活動内容や単元構成を見直し、随時、評価規準と照らし合わせて、再構築していくことが必要である。

	関連する単元名	時数
第一学期	「自分を見つめて未来に羽ばたこう」 ～ 第一夜 世界友だちプロジェクト ～	14 時間
第二学期	「自分を見つめて未来に羽ばたこう」 ～ 第二夜 夢について語り隊 ～	22 時間
第三学期	「自分を見つめて未来に羽ばたこう」 ～ 第三夜 自分発 未来の自分へのメッセージ ～	14 時間

【第6学年】ESDカレンダー

教科	1 学期	2 学期	3 学期
算数	比	比例と反比例 データの調べ方	算数のしあげ 算数卒業旅行
理科	私たちの生活と環境 生物どうしの関わり	土地のつくりと変化	私たちの生活と電気 生物と地球環境
社会	わたしたちの生活と政治	日本の歴史	世界の中の日本
国語	地域の施設を活用しよう 聞いて、考えを深めよう 私たちにできること	みんなで楽しく過ごすために 日本文化を発信しよう 大切にしたい言葉	今、あなたに考えてほしいこと 思い出を言葉に 今、ほくは、わたしは
総合的な学習	第一夜（ホップ） 世界友だちプロジェクト	第二夜（ステップ） 夢について語り隊	第三夜（ジャンプ） 自分発!! 未来の自分へのメッセージ
自分を見つめて未来に羽ばたこう ～国際理解・キャリア教育～			
行事等 学級活動	委員会・縦割り班 移動教室 1年生と合同遠足	委員会・縦割り班 運動会 ESD 集会 卒業文集	展覧会 伝統引き継ぎ式 委員会・縦割り班 謝恩会 卒業式
家庭	生活時間をマネジメント	生活を豊かにリノイング	共に生きる地域での生活 持続可能な社会を生きる
図画 工作	想像する力 墨と水から広がる世界 海外の児童の作品 海外の美術作品 美術館へ行こう	わたしの感じる和 水の流れるように	平和をつなげるかたち ドリームプロジェクト
音楽	鼓笛パレード 朝顔をひかてをたげよう 鼓笛の朝顔をひかてをたげよう	鼓笛パレード 曲調の変化を感じ取ろう 鼓と音の関わりを味わおう	鼓笛パレード 日本や世界の音楽に親しもう 音楽で思いを伝えよう
外国語 活動	We are from India. This is our school.	I am hungry. It was green.	My Dream I want to be a vet.
特別な教科 道徳	米百俵 作業服のノーベル賞	高とりの選手はどれがなる 雪の写真家ベントレー ペルーは溢れている	エルトゥール号の遭難 平和の祈りを贈る マザー・テレサ

6 単元の指導計画と評価計画（全 14 時間扱い）

時	目標	○学習内容 ・学習活動	評価規準（評価方法）
課題の設定 (1～3) 本時	異なる文化や価値観を理解し、大田区の目指す多文化共生への実態を調べ、自分がどう関わり	○国や地域の実態を調べ、今後の活動への見通し（疑問点や調べたいこと）学習計画を立てる。 ・多文化共生の目的や意味を知る。 ・多文化共生について調べるために必要な視点から仮説を立てる。（本時） ・仮説を検証する学習計画を立てる。	イ-① ワークシート 振り返りの記述
情報の収集 (4～8)	を深めることができるか自分なりの答えを見付けることができる。	○グローバルな視点と地域の視点から異なる文化を超えた共生やそこに暮らす人同士の関わりの実態を調べて問題点を見いだす。 ・複数の情報を取り出し、必要に応じて記録する。	イ-② ワークシート 振り返りの記述
整理・分析 (9～11)		○調査したことや、話し合ったことなどを視点や項目ごとに分類したり、比べたりしながら、情報の整理・分析を行う。 ・視点や項目に沿って、考えるための技法を使って整理・分析する。	ア-①② イ-③ ワークシート 振り返りの記述
まとめ・表現 (12～13)		○情報を活用して意見文やパンフレットなどに自分の考えをまとめる。 ・調べて分かったことをまとめている。 ・自分なりの表現方法を使い、考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする。	イ-④ 児童の成果物 (パフォーマンス評価) 振り返りの記述
振り返り (14)	活動を振り返り、自分の学び方を再確認し、次の課題に向けて考えることができる。	○活動全体を振り返り、自己の学び方や成果や課題を見つめ直す。 ・活動を振り返り、自分の学び方を確認する。 ・自分の考えを更新したり、新たな課題を見付けたりする。	ア-③ ウ-①② 振り返りの記述

7 指導に当たって

第2期の班テーマを「主体性を発揮するための学習環境とその手立て」とした。児童が主体性を発揮し学びを充実させるために、指導と評価の一体化が重要である。そこで、児童の学習状況の把握や、変容を促したり評価したりするために、ルーブリックを活用することが望ましいと考えた。また、第1期からの手立ての蓄積を深化し、発展させていくことも継続していきたいと考えている。

(1) 主体性を発揮するための学習環境とその手立て 導入の工夫

評価規準	評価項目	学習項目	十分できている (A)	できている (B)
------	------	------	-------------	-----------

<p>ア-① 国や地域に暮らす外国人とその人たちが大切にしている文化や価値観があることを理解している。</p>	<p>知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地域ごとに文化や価値観の違いがあることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく学んだ語句や内容、その意味を自分の言葉で説明することができる。 ・調べた内容を自分の立場や状況と比べ、相違点があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく学んだ語句や内容、その意味を理解している。 ・調べた内容を自分の立場や状況と比べようとしている。
<p>ア-② 大田区には、国際都市おおた大使やおおた国際交流センター等、外国人を支援する行政機関や職業があることを理解している。</p>	<p>知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身近な場所での多文化共生の取組を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区の方針やそれに関わる内容を理解し、図や表などに表現することができる。 ・よい点や課題を含め立場の違いを多面的に捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区の方針やそれに関わる内容を理解している。 ・よい点や課題を理解している。
<p>ア-③ 相手や場面に応じた適切な調査や表現方法があることを理解している。</p>	<p>技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、自分の学び方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた適切な調べ方や表現方法があることを理解している。 ・自分の学び方を振り返り、学んだことや生かしていきたいこと等、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた適切な調べ方や表現方法があることを理解している。 ・自分なりの学び方で活動することができる。
<p>イ-① 課題の解決に向けた計画書の作成にあたり、何を</p>	<p>課題の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてについて理解し、自分の言葉で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてが分かっている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・調べることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知りたいこと、調べたいことを複数考えてい 	<ul style="list-style-type: none"> ・知りたいこと、調べたいことを考えている。

か、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。			る。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・仮説とその理由を表現する。(解決の見通し) 	<ul style="list-style-type: none"> ・知りたいこと、調べたいことを複数考えている。 ・調べたい問いの中から複数の視点を使い、仮説を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたい問いを自ら見付け、仮説を考えることができる。 ・動機や理由を考えることができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・計画表を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動内容やキーワードを考えている。 ・自己の予想との差異を調べる計画表を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に即したキーワードを考えている。 ・計画表を作成することができる。
イ-② 必要とする情報に応じて、調べる内容を精査し方法を決めている。	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報を取り出し、記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼のおける情報を多角的に入手することができる。 ・入手した情報の出所について整理して示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼のおける情報を入手することができる。 ・情報の出所について示されている。
イ-③ 多文化共生について、成果や課題等の視点を結び付けて自らの考えへの根拠を見いだしている。	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理する。 ・事実と意見を区別する。 ・複数の情報を区別する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報の内容を分かりやすく整理・分析することができる。 ・分析した情報を適切に活用できるようにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報の内容を整理・分析することができる。 ・分析した情報をまとめることができる。
イ-④ 活動を通して学んだ自分からの思い、学びによる自己の	まとめ・表現 成果物は、パンフレットや新聞、意見文等、	<ul style="list-style-type: none"> ・構成を考える。 ・情報をまとめる。 ・視点をもって聞いている。 	成果物（パフォーマンス） <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことが、よく伝わるように調べたことと、考えを関連付け分かりやすくまとめている。 	成果物（パフォーマンス） <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことが、読みに伝わるように調べて分かったことをまとめている。

変容等、自分の考えをまとめ表現している。	パフォーマンスとして評価できるものとする。	る。 ・分かりやすく発表している。	発表（パフォーマンス） ・調べて分かったことや自分の考えを伝え、その根拠も話すことができる。 ・疑問点を明確にして質問することができる。	発表（パフォーマンス） ・調べて分かったことや自分の考えを伝えることができる。 ・疑問点があいまいなまま質問をすることができる。
ウ-①② 国や地域の異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとするよさを取り入れようとしている。	学習過程を振り返る	・協働的な学びを振り返っている。（相互評価） ・ポートフォリオを使い活動を振り返っている。 ・問いへの理解を深める。（自己評価）	相互評価 ・自分の考えを伝え、相手の考えを受け止めることができる。 自己評価 ・自分の考えを深め、学習によって身に付いたことや改善したいことを3つ以上考えることができる。 ・問いに対する理解を深め、新たな疑問やさらに調べたいことに気が付くことができる。	相互評価 ・自分の考えを伝えることができる。 ・相手の考えを受け止めようとしている。 自己評価 ・自分の考えを深め、学習によって身に付いたことや改善したいことを考えることができる。 ・問いへの理解を深めることができる。

(2) 活動を促したり深めたりする言葉掛けや視点による価値付け

活動中に、6W1Hを意識させた言葉掛けや視点を示したワークシートを活用するようにする。グループ活動では、意見を押し通すのではなく「どう思う。」「これでいいかな。」「どんなことを考えたの。」など相手を意識し参加を促す言葉掛けを行うようにする。児童が考えを深めていけるように、「これでいいかな。」「どうしてそう思ったの。」「どうしたらいいかな。」「このいいところを合わせられないかな。」など批判・多面・多角・関連・統合などを意識した言葉掛けを行う。

(3) 充実した振り返り活動への工夫

振り返りカードは、文章やイメージした絵などがかけるようにし、「①学習を通して考えたことや深まったこと」、「②友達のよかったところ」、「③次に学習したいこと」など具体例を示すことで観点に沿った振り返りができるようにする。

(4) ポートフォリオの活用

毎時間の活動を振り返りカードに記載するだけでなく、一目で見直すことができるようにワンペーパーポートフォリオを使い、ワークシートや印字物などの情報も蓄積できるようにファイルにまとめる。また、タブレット端末の共有ドライブを活用することで電子ファイルやURL、発表資料など、学びの足跡だけでなく情報や資料をいつでも取り出すことができるようにする。

8 本時の学習（全14時間中の第2時）

(1) 本時の目標

多文化共生について、大項目から小項目へと視点を広げた自分なりの仮説を立てる。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・児童の発言（C：コメント）	・指導上の留意点 ☆評価規準（方法）
導入 5分	<p>○前時の学習を振り返る。 C：多文化共生の意味や目的を学びました。 C：他の国や地域の文化や価値観を知る必要があったことが分かりました。 C：大田区の取組を知り、自分たちにどんなことができるか考えたいと思いました。 ○本日のめあて、学習の流れを確認し見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分なりの最もよいと想像する多文化共生の世界を考える。</div>	<p>・前時の学習を振り返り、話し合い活動の見通しや活動の目的を共有できるようにする。 ・活動内容を明確にする。 (1) 多文化共生を詳しく調べるための視点を考える。 (2) 視点を活用し仮説を立てる。</p>
展開 I 25分	<p>○多文化共生について調べるために、大項目から小項目を考える。(10分) C：お金や物の価値は違うのかな。 C：女性や男性の立場は違うのかな。 ○項目ごとに必要な視点について、思考ツールを使ってグループで話し合い共有する。(15分) C：どんな価値観の違いがあるのか○さんの話を聞いて私も知りたいと思いました。</p>	<p>・チャートを活用し、6W1Hに即して書き出していく。 大項目 多文化共生 ・事前にチャートの使い方を体験し、活用方法を理解させておく。 (1)いつ (2)どこで (3)誰が (4)誰に (5)何を (6)どのように (7)なぜ (8)いくら (必要なお金)</p>
展開 II 10分	<p>○共有した内容から自分なりに最もよいと思う多文化共生の世界について考える。 C：様々な人が安全・安心して暮らしていける世界です。その理由は、平和な世の中がいいと思うし楽しく暮らしていくことができれば幸せだと思うからです。</p>	<p>・話し合いを通して出た意見を整理しながら、板書を通して児童の思考を共有できるようにする。 ・アプリ（スクールタクト）を活用する。 ☆イ-①・自分なりの仮説とその理由を考えることができる。 (ワークシート、振り返り)</p>
まとめ 5分	<p>○学習を振り返る。 C：グループで話し合うと、自分と同じ考えの友達や違う考えの友達がいて新しい視点が生まれました。 C：自分なりに最もよいと思う多文化共生の世界を考えたことができたので、今はどうなのか知りたいと思いました。 C：自分では、チャートの項目を考えて書くことができなかった。 C：書けるところから書いていくことで、少しでも自分の考えを表現できるようにしたいと思いました。</p>	<p>・次回の活動内容を共有し、次時の導入時間の短縮に生かせることができるようにする。 ・学習を通して、本時の目標を達成することができたのか考えさせる。 (視点) ・うまくいったこと ・うまくいかなかったこと ・次に同じような活動を行うときに、工夫したいこと</p>

(3) 板書計画

5月19日(木)

今日のめあて

自分なりの最もよいと想像する多文化共生の世界を考えることができる。

今日の学習の流れ

- 活動の見通し (5分)
- グループでの話し合い (25分)
- 自分の仮説 (10分)
- 振り返り (5分)

次時の学習

仮説から今を知るための学習計画を立てる。

誰が	誰に	何を
いつ	大項目 多文化共生	なぜ
いくら (必要なお金)	どうして	どのように
振り返り <ul style="list-style-type: none">・グループで話し合うと、自分と同じ考えの友達や違う考えの友達がいて新しい視点が生まれました。・自分なりに最もよいと思う多文化共生の世界を考えることができたので、今はどうなのか知りたいとおもいました。		

(4) 授業観察の視点

- ・導入の内容や時間は、児童の目的意識や本時の展開に向けて適切であったか。
- ・大項目は適していたか。小項目の視点は児童にとって分かりやすかったか。
- ・児童の思考が視覚的・効果的に板書として示されていたか。
- ・児童が本時の学習を振り返ることができていたか。